



（オンライン開催）

募集要項

募集期間 2020年7月1日（水）～8月2日（日）

会期 2020年11月15日（日）～11月22日（日）※予定

もくじ

1.	サイエンスアゴラとは	3
2.	サイエンスアゴラ 2020（オンライン開催）概要	3
3.	サイエンスアゴラ 2020 のテーマ：Life	4
4.	サイエンスアゴラ 2020 推進委員会	4
	●サイエンスアゴラ 2019 推進委員会 委員長からのメッセージ	4
	●委員会メンバー	5
5.	募集企画数と実施のタイムテーブル	6
6.	出展料金について	7
7.	専門家への相談について	7
8.	出展に向けたスケジュール	8
9.	応募資格	9
10.	応募の流れ	9
11.	オンライン応募フォームについて	10
12.	企画タイトル・出展者名の統ルール	12
13.	審査の観点	13
13-1.	企画実施に関する注意点	13
13-2.	時間配分の例	14
13-3.	来場者とのコミュニケーションについて	15
13-4.	広報計画の策定	15
14.	求める企画	16
15.	JST 主催企画、コラボ企画、誘致企画について	16
16.	協賛企業の募集について	17

1. サイエンスアゴラとは

サイエンスアゴラは、「科学」と「社会」の関係をより深めていくことを目的として、**あらゆる立場の人たち（市民、研究者・専門家、メディア、産業界、行政関係者など）が参加し対話するオープンフォーラム**です。※アゴラ（agora）は古代ギリシャ語で「広場」の意味

出展者にとっては、自身の研究や開発の内容、科学そのものの面白さ・深さを社会に伝える場であるとともに、来場者からの声により「社会に求められる科学とは何か」を考える場です。

来場者にとっては、普段出会えない研究者や専門家の考えを知り、これからの科学や技術に対し自らの希望を伝える場になります。また、サイエンスアゴラでの体験を周囲に伝えることは、参加できなかった人にも、科学と社会の関係を考えるきっかけを提供することになります。

●サイエンスアゴラに集まる人たち全員が「参加者」

サイエンスアゴラでは、出展者、来場者を併せて「参加者」と捉えています。この場は、研究者だけが集まる学会ではなく、子供たちだけを対象としたイベントでもありません。多様な価値観を認め合いながら、皆が共に考え、未来社会を創り出す「共創」を重視します。科学技術を活用しながら、あらゆる立場の人たちが対話・協働し、それを政策形成や知識創造へ結びつける「共創」に関心をお持ちの方は、ぜひサイエンスアゴラにご参加ください。

2. サイエンスアゴラ 2020（オンライン開催）概要

サイエンスアゴラは毎年11月にお台場地区で実施してきました。しかし、今年11月の新型コロナウイルスをとりまく社会状況を予測することは困難です。サイエンスアゴラ2020は、来場者、出展者、関係者の安全を第一に考え、WEB上で開催します（URLは後日発表）。

会期：2020年11月15日（日）～2020年11月22日（日）※予定

主催：国立研究開発法人 科学技術振興機構（JST）

- ※ 企画は、ライブ配信と録画済み動画の公開により実施するものとします。
- ※ 新たな企画の追加は会期中にのみ行われ、公開する動画の掲載期間は1年間を目安とします。
- ※ 主催者が実施する関連イベントについては、会期の前から掲載を開始する場合があります。
- ※ 主催者企画の一部は、状況が許せば来場者が直接参加できる方式で行います。
- ※ 16ページに記載のような、ユニークな企画を併せて実施します。

オンライン開催によって、どなたでも、どこからでもサイエンスアゴラ2020に参加できるようになり、参加者も増加することが見込まれます。サイエンスアゴラ2020は、インターネットを通じた新しい科学と社会の関係の深め方、科学の面白さの伝え方を考え直し、これからのイベントのあり方を検討する場にもしたいとも考えています。各種のツールを使ったコミュニケーションの提案もお待ちしています。今後の時代に必要とされる、新しいサイエンスアゴラを一緒に作っていきましょう。

3. サイエンスアゴラ 2020 のテーマ：Life

新型コロナウイルス感染症（COVID-19）の感染拡大は、私たちの社会に大きな混乱と変化を引き起こしました。当たり前になるにはもう少し時間がかかると思われたテレワークやオンライン授業なども、「新たな生活様式」の提案により、ある程度は実施されるようになっていきます。未来が近づいたという人もいれば、理想から遠ざかったと考える人もいるでしょう。便利さを享受できる人とそうでない人がいるという現実も浮き彫りになりました。

昨年のサイエンスアゴラでは「Human-どんな未来を生きていく?-」をテーマに、科学技術が発展する未来の生活を具体的に想像し、様々な分野における課題解決の方法を検討しています。社会が変わっても、変わるもの、変わらないもの、変えたくないものを、それぞれの立場で考えました。2020年は、昨年の議論を引き継ぎながら、人々の「Life」、すなわち、私たちの生命や生活、人としてのありかたと、科学技術の接点についての考えを深めます。

新型コロナウイルス以外にも、たくさんの想定外因子によって社会は変わります。自然との関わり方や、家族や友人との距離感、健康や安全であることの意味合いや、社会のルールも変わっていきます。サイエンスアゴラ 2020 を通じて、変化した Life、これからの Life、未来の Life、そして私たちのライフプランを考えてみて下さい。

4. サイエンスアゴラ 2020 推進委員会

サイエンスアゴラ 2020 推進委員会 委員長からのメッセージ

世界では多くの人々が COVID-19に感染し、中には命を落とした方もいらっしゃいます。これらの経験は、結果として私たち人類に数々の知見を残し、未解明な部分は多く残されているものの、科学的に完全に未知の存在とは言えない状況になっています。それでも混乱は続き、人種問題や、政治の問題も多く見られます。今年、人々の生命が脅かされ、私達の意識や生活様式が強く問われていることは間違いありません。

サイエンスアゴラ2020では「Life」をテーマとして掲げ、生命や生活について皆さんと改めて考える機会を持ちたいと考えております。答えはひとつではありません。様々な立場や角度から、いくつもの「Life」が見えてくるはずです。これから数年先の、また、数十年先の暮らしは、どのように変わっているのでしょうか？ 私たちはどのようにして、生活・社会を立て直し、望む未来を作っていくのでしょうか？

これまでもヒト（Human）は、感染症のみならず豪雨や地震などの自然災害といった様々な困難と向き合い乗り越えてきました。そこで得た経験を私達はどのようにして人類の記憶として世代を超えて伝えられるのか、起こりうる脅威を迎え撃つ知恵に昇華させられるのか、また具体を推進する原動力にできるのかを皆で探る場にできれば幸いです。

サイエンスアゴラ2020推進委員会委員長 駒井章治

委員会メンバー



駒井章治 日本学術会議若手アカデミー委員会委員長や Global Young Academy の Executive Committee 委員を歴任。科学者全員が活躍できるチャンスのある社会を目指す。専門は神経科学。(東京国際工科専門職大学工科学部情報工学科教授)



齋藤敦子 ワークプレイスの企画・設計からイノベーションや創造都市などを切り口とした働き方研究を専門とする。(一般社団法人 Future Center Alliance Japan(FCAJ) 理事 / ディレクター)



サリー楓 国内外のデザインファームを経験後、ブランディングコンサルタントとして独立。2017年より女性として生活。日建設計を拠点に建築や事業の提案を行う傍らトランスジェンダー当事者としてLGBTQに関する講演を行う。(日建設計NAD室コンサルタント)



タカハシショウコ アルスエレクトロニカ クリエイティブプロデューサーを経て、2018年に人と社会とロボットの関係性をデザインするロボットエクスペリエンスデザインカンパニーを起業。(インキュビオン株式会社 CEO)



根本かおり 生活者発想での未来洞察アプローチによる商品・事業・組織の開発が専門。多様なフィールドで、対話形式で未来を構想・創出する仕組みづくりに携わる。(株式会社博報堂 ブランド・イノベーションデザイン局ストラテジックプランニングディレクター)



廣常啓一 次世代の社会や潜在的市場に、技術や研究(企業や大学)をどの様に結び付け、持続的・社会課題解決型の事業及びまちづくりにつなげるかをプロデュース。大阪万博などの大型プロジェクトにも参画。(株式会社新産業文化創出研究所 代表取締役 所長)



南澤孝太 人の身体感覚を共有し拡張する「身体性メディア」の研究者。触覚技術を社会価値に繋げる HAPTIC DESIGN や、技術と文化と身体を融合するスポーツ共創などの活動を推進。(慶應義塾大学大学院メディアデザイン研究科教授)



宮野公樹 思索と実践の自由な場を大学内で創出し、学問本来のあり様をもとめる挑戦を続けている。理工系出身ながら、現在は哲学の研究者。(京都大学学際融合教育研究推進センター准教授)



荒川敦史 多様な組織の共創を促す「CHANCE 構想」、科学技術を用いて地域の社会課題解決やSDGs達成を目指す“「STI for SDGs」アワード”や「SOLVE」の立ち上げに携わる。(科学技術振興機構「科学と社会」推進部 部長)



森田由子 科学コミュニケーションは誰のためのものなのかという問題意識をもとに、機会や場づくり、ノウハウの蓄積と共有のための活動を、組織を超えて行う。(日本科学未来館プログラム企画開発課科学コミュニケーション専門主任)

5. 募集企画数と実施のタイムテーブル

会期中のライブ配信数は最大 73 企画です (昨年のサイエンスアゴラは 154 企画)。1 日に実施できる企画数は以下の通りですが、実際のライブ配信数はこれより少なくなる場合があります。実施企画は YouTube でも同時配信し、動画はサイエンスアゴラのサイトで 1 年程度閲覧可能とします。

15 日(日)	16 日(月)	17 日(火)	18 日(水)	19 日(木)	20 日(金)	21 日(土)	22 日(日)
16 企画	5 企画	5 企画	5 企画	5 企画	5 企画	16 企画	16 企画

また、ライブ配信を行わない録画済みの動画でも出展できます (会期初日から閲覧可能な 10~20 企画程度)。実施のタイムスケジュールは以下の通りです。ライブ配信は 10 時から 19 時に行いますが、出展者の要望により、終了時刻が 19 時を過ぎる日程を組む場合があります。

	ライブ配信による出展			録画済み動画による出展
	Room A (グループワークを含むセミナー)	Room B (対話型シンポジウム)	土日のみ Room C (対話型セミナー ※工作・実験を含む)	
10:00	企画 A-1 (120 分) ※平日は実施なし	企画 B-1 (90 分) ※平日は実施なし	企画 C-1 (40 分)	10~20 企画程度
11:00			休憩	
12:00	休憩	休憩	休憩	
			企画 C-3 (40 分)	
13:00	企画 A-2 (120 分)	企画 B-2 (90 分)	企画 C-4 (40 分)	
			休憩	
14:00	休憩	休憩	企画 C-5 (40 分)	
			休憩	
15:00	休憩	企画 B-3 (90 分)	企画 C-6 (40 分)	
			休憩	
16:00	企画 A-3 (120 分)	休憩	企画 C-7 (40 分)	
			休憩	
17:00	休憩	企画 B-4 (90 分)	企画 C-8 (40 分)	
			休憩	
18:00	終了	終了	企画 C-9 (40 分)	
			終了	

ライブ配信には、サイエンスアゴラ運営事務局が用意するビデオチャット Zoom のアカウントを
用います。40 分以内の録画済み動画の提供 (YouTube) で出展する場合、YouTube アカウントは出
展者でご用意ください。

ライブ配信：主催者が指定する時刻に実施してください。ライブ配信の視聴には事前登録が必要
になるため、サイエンスアゴラ運営事務局にて来場希望者の事前登録を受け付け、申し込みのあ
ったメールアドレス宛に、企画を実施する際の URL を送付します。

動画提供：会期前 (10 月上旬まで) に YouTube に動画をアップロードして、主催者に URL を
お知らせください。サイエンスアゴラ 2020 の WEB サイトから閲覧ができるようにします。会期
中は、twitter や Facebook、メールなどで質問を受け付け、回答ができるようにしてください。

企画実施の目安：時間枠をすべて使い切る必要はありません。たとえば、120 分以内の枠で 100
分の企画実施、90 分以内の枠で 60 分の企画実施は可能です。

実施時間	向いている企画	主な対象者	企画提供の 方法	参加者との 対話
120 分以内・ 90 分以内	対話型シンポジウム	参加者数は 100～ 1000 人を想定	ライブ配信＋ 録画した動画 の配信	対話の方法は審 査対象です。よ りよい手法を応 募申請書にご記 載ください
	グループワークで課 題を解決するワーク ショップ	中高校生以上～大 人、参加者数は 50 ～100 人を想定		
40 分以内	工作・実験など、参加 者と一緒に手を動か して考える企画 (従 来のブース企画)	主に小中学生、参加 者数は 10～20 人を 想定	上記に加え、 YouTube での 動画提供(ライ ブ配信なし)	

※ Zoom 以外のツールを利用したい場合は、応募申請書の特記事項欄にその旨ご記載ください

6. 出展料金について

2018 年から 1 企画 2 万円の出展料金を設定していましたが、サイエンスアゴラ 2020 の出展料金は無料とします (運営事務局が提供する Zoom アカウントから出展者をパネリスト任命することで、無料で利用いただけます)。ただし、企画実施に必要な機器や、準備にかかる一切の費用 (材料費、搬送費、打ち合わせの費用など) は出展者でご負担ください。

7. 専門家への相談について

WEB 上でのセミナー (ウェビナー) で来場者が飽きずに視聴できる時間は大人でも 60～90 分で、60 分を超えると離脱率が高くなります。これまでの出展経験では補えない知見が必要となるため、企画検討段階での専門家への相談をお勧めします。

大学の方は既にオンライン授業を取り入れているところが多いので問題ないと思われませんが、より良い企画を作るためには、学内の科学コミュニケーションを専門とする研究室か URA (University

Research Administrator)にご相談ください。**企業の方は広報部門**に意見を求めることができるかもしれませんが、サイエンスアゴラへの**出展経験のある方は、これまでの出展で知り合った別の出展者と知恵を出し合ってみてください。**

専門家とのつながりがない場合や、より積極的に関わってくれるアドバイザーが必要な場合は、科学コミュニケーションを業とするフリーランサーや企業をインターネット上で探すこともご検討ください。実務経験が豊富な専門家への相談には料金がかかりますが、来場者の満足度が高い企画実施が期待できるでしょう（何を依頼したいのかを明確にした上での見積もり依頼をおすすめします。最終的には、出展者自らの責任において確認、判断したうえでご依頼ください）。なお、科学コミュニケーションを擁する全ての組織が外部相談に応じられるとは限りませんのでご注意ください（日本科学未来館は主催者（JST）が運営する組織のため、公平性の観点からサイエンスアゴラへの出展相談を承っておりません）。

8. 出展に向けたスケジュール（★は出展者が独自に行う作業です）

- 7月1日(水) ● **出展応募・協賛企業の募集開始**（協賛制度については18ページをご覧ください）
 - ★出展内容の方向性検討、登壇者への打診、必要経費の確保など
 - ★応募申請書の提出……………参照：10ページ～
- 8月2日(日) ● **応募〆切**
- 8月末 ● **サイエンスアゴラ 2020 推進委員会による審査を経た結果通知**
 - ★登壇者、協力者への連絡
- 9月上旬 ● **公開情報の登録**（※以降の詳細スケジュールは後日の連絡となります）
 - ★公開情報登録（英語含む）、出展同意書の登録
- 9月下旬 ● **出展者マニュアル掲載**
 - ★マニュアルのダウンロードと内容の確認
- 9月末 ● **ウェブサイトで全プログラム公開**（プレスリリース後）
 - ★広報計画の実施（必要に応じ独自印刷物の手配）
 - ★手続きの確認
- 10月 ● **JSTによる公式チラシ・ポスター完成、運営事務局で企画参加の事前登録開始**
 - ★YouTubeで出展の場合は運営事務局にURLを送付
 - ★ライブ配信出展の場合は台本の作成、協力者との情報共有
- 11月15日(日) ● **サイエンスアゴラ 2020 開幕**
以降 サイエンスアゴラの方向性を示すセッションを実施します
ぜひご覧ください
 - ★企画実施、企画実施後のレポート提出
- 11月22日(日) ● **閉幕** ※各企画の動画は1年程度の公開を予定

開催後は
JST や運営事務局からの
アンケートなどにご協力ください

9. 応募資格

サイエンスアゴラの基本的な考え方にご賛同のうえ、以下の条件で今年のテーマに沿った企画を実施できる、企業、団体、グループからの応募をお待ちしています（組織名での出展は、組織の同意を得た上でご応募ください）。

- 公開可能な情報で企画を構成し、会期中に、2名以上で企画を遂行できる（当日に企画を放棄しない仕組みがある）
- 対話が可能な企画を、運営事務局が指定する時間にインターネット上でライブ配信するか、録画済の動画によって公開できる
- ライブ配信の場合、企画終了後のサイエンスアゴラ公式サイト内での動画公開に同意する
- ライブ配信の場合、配信後 24 時間以内に、サイエンスアゴラ公式サイト内で公開可能なレポートを記入し運営事務局に提出できる
- ご自身の企画の事前告知・広報・集客ができる（サイエンスアゴラ公式 SNS では、皆さんの告知をリツイートなどで紹介し、各企画の広報のサポートを行います）

10. 応募の流れ

サイエンスアゴラ 2020 への出展応募申請は、WEB 上の「オンライン応募フォーム」で受け付けます。サイエンスアゴラの公式サイト（<https://www.jst.go.jp/sis/scienceagora/>）からアクセスし、注意事項をご確認のうえご応募ください。

1) 応募のためのログイン ID の取得

今後の事務手続きで連絡窓口になる方がご登録ください（採択通知などの連絡は、この ID のメールアドレスにお送りします）。2015 年以降にサイエンスアゴラへ出展ご応募いただいた方は、同じ ID を利用できます。**1 企画につき、ひとつの ID での応募をお願いします。会期中に 2 回の企画を実施したい場合は、2 つの ID が必要です。**

2) 応募

「マイページ」にアクセスし、公開資料より必要書類（応募申請書および記入説明書）をダウンロードしてご応募ください。

3) 応募の確定

必要事項を記入したらアップロードします。最後に「送信」ボタンを押して**応募を確定**してください。応募受付締め切り日時までは入力した情報の確認・修正ができますが、締切日以降は、修正も閲覧もできません。送信内容をご自身で管理してください。

募集期間

2020年7月1日(日)～8月2日(日)23:59※日本標準時間 **まで**

出展・協賛に関するお問い合わせ先 ※2020年7月30日(木)まで

JST サイエンスアゴラ出展準備室 E-mail: agora@jst.go.jp

1.1. オンライン応募フォームについて

- ✓ 登録する内容は、タイムテーブル設計に用いる重要な情報なので、具体的にご記入ください
- ✓ 登録内容記入中、途中でページを閉じるとデータは保存されないのをご注意ください
- ✓ 「マイページ」に掲載の公開資料より、**専用様式【2020】応募申請書（Excel）と【2020】記入説明書（PDF）をダウンロードし、申請書を作成してください**
- ✓ **マイページは 60 分でタイムアウト**になるため、**【2020】応募申請書（Excel）を完成させてから**応募フォームの入力を開始してください

【2020】応募申請書
(Excel) の
記入に際しては

【2020】記入説明書 (PDF) を
お読みください

[1] 出展者について

NO	項目	内容	タイプ	選択肢
1	出展者の名称	出展者の名称を記入ください（全角25字以内）。この名称がプログラム等へ掲載されます。字数に超過がある場合、掲載時に削除される場合があります。	テキスト	
2	出展タイトル	企画タイトルを記入ください（全角25字以内）。このタイトルがプログラム等へ掲載されます。字数に超過がある場合、掲載時に削除される場合があります。	テキスト	

3	出展者の属性	出展者の属性を選択肢から1つ選んでください。 該当がない場合は「その他」を選択してください。	ラジオボタン	<input type="radio"/> 大学・研究機関 <input type="radio"/> 学校関係（小中高等） <input type="radio"/> 科学館／博物館 <input type="radio"/> メディア <input type="radio"/> 企業 <input type="radio"/> 行政機関 <input type="radio"/> NPO／NGO等 <input type="radio"/> 組織ではない（有志の集まりなど） <input type="radio"/> その他
4	責任者氏名	企画提供の責任者の所属、役職、氏名を記入ください。採否通知等、主催者ならびにサイエンスアゴラ運営事務局からの連絡等は責任者さま宛となります。	テキスト	
5	実績	過去にサイエンスアゴラでの企画提供の実績があれば、その年を選んでください。	チェックボックス	<input type="checkbox"/> 2006 <input type="checkbox"/> 2007 <input type="checkbox"/> 2008 <input type="checkbox"/> 2009 <input type="checkbox"/> 2010 <input type="checkbox"/> 2011 <input type="checkbox"/> 2012 <input type="checkbox"/> 2013 <input type="checkbox"/> 2014 <input type="checkbox"/> 2015 <input type="checkbox"/> 2016 <input type="checkbox"/> 2017 <input type="checkbox"/> 2018 <input type="checkbox"/> 2019

[2] 企画の内容について

NO	項目	内容	タイプ	選択肢
6	応募申請書	指定の様式（Excel）をダウンロードし、応募申請書を作成のうえ、添付にて提出ください。 ※上記1～6の項目と同様の記載を含みます。	添付	

13. 審査の観点（13ページ～）も併せてご参照ください

[3] 特別事項

NO	項目	内容	タイプ	選択肢
7	Zoom アカウント	事務局の Zoom アカウントの利用を希望しますか。	ラジオボタン	<input type="radio"/> 希望する <input type="radio"/> 希望しない
8	通訳機能利用について	同時通訳の機能の利用 ※ 通訳の手配を申し込むものではありません。 通訳者、機材の手配は出展者自身でお願いしております。	チェックボックス	<input type="checkbox"/> 利用する
9	英語対応	英語対応が可能ですか。 ※ 国内外からの日本語を母語としない参加者が増えています。そのため、英語での企画内容の説明やコミュニケーション、印刷物の英語版の作成など、何らかの工夫を推奨します。	チェックボックス	<input type="checkbox"/> 可能

[4] 個人情報の取り扱いについて

NO	項目	内容	タイプ	選択肢
10	JST からの ご案内	応募にあたり登録いただいた連絡先に、JST 事業の 各種ご案内などをお送りしてもよろしいですか。	ラジオ ボタン	<input type="radio"/> はい <input type="radio"/> いいえ
11	調査研究 目的の利用	応募にあたり登録いただいた属性等を、科学コミュ ニケーションにかかる調査研究などの目的に利用 してもよろしいですか。	ラジオ ボタン	<input type="radio"/> はい <input type="radio"/> いいえ

[5] 確認事項

12	確認	募集要項に記載の「応募の条件」を確認しましたか。	チェック ボックス	<input type="checkbox"/> はい
----	----	--------------------------	--------------	-----------------------------

1 2. 企画タイトル・出展者名表記の統一ルール

サイエンスアゴラでは、表記について以下のルールを設けています。ルールに沿っていないものは運営事務局が適宜修正するのでご了承ください。

ルール (1) 法人格（国立大学法人、株式会社、特定非営利活動法人など）はすべて省略

ルール (2) 法人名・機関名と部署名の間には半角スペースを挿入
部署名が複数続く場合は見やすさの観点から、適宜、半角スペースを挿入

ルール (3) カタカナ・英数字はすべて半角で記入（スペースも半角）
記号（丸括弧（ ） かぎ括弧「」 中点・句点。読点、感嘆符！ 疑問符？ チルダ～ など）はすべて全角で記入

ルール (4) 企画タイトルにサブタイトルがある場合の表記は以下の通りとする
主タイトル 半角スペース チルダ サブタイトル チルダ
例) 光の色彩 ～視覚で楽しむ炎色反応～

その他

- ① タイトル全体がかぎ括弧「」などで囲まれている場合は、とる
- ② 一重括弧なしに二重括弧が使われている場合は、一重括弧に変更
- ③ 複数の出展者が同列で列挙する場合は、読点で区切る
- ④ 感嘆符、疑問符の後ろは、原則、半角スペースを空ける

1 3. 審査の観点

応募申請書をもとに、下記の観点に基づき審査します。採択通知はメールで行い、委員会からのコメントがある場合は併せてお知らせします。審査の観点が充実している企画には、公式ウェブサイトやチラシ等で優先的な紹介が行われる「注目企画」としての実施をお願いする場合があります。

【審査の観点】

- ① 参加者と一緒に考えたいことを設定しているか
- ② どのようにして参加者の対話を促し、意見を集めるのか
- ③ 参加者に提供できるものが考えられているか（参加者に新しい観点を与えられるか）
- ④ 時間配分や関心度が異なる人への配慮が考えられているか
- ⑤ 参加見込みのターゲット層への広報計画が妥当であるか

1 3 – 1. 企画実施に関する注意点

サイエンスアゴラ 2020 では、Zoom で**登壇者と資料のみを画面に映し出す設定**での企画実施を原則とします。Zoom 以外のツールを用いて企画を実施する場合も、**来場者が映り込まないようにするか、映り込む場合は来場者の同意（未成年者の場合は保護者の同意）を得た上で、個人情報、プライバシー及び肖像権等の保護に十分留意して下さい。**万が一、来場者との間にトラブル等が発生した場合は、出展者の費用と責任において当該トラブルの解決を行ってください（サイエンスアゴラ運営事務局ならびに科学技術振興機構は関知しません）。

ライブ配信や動画作成にあたっては、YouTube Creator Academy で、機器の選び方、コンテンツ戦略の立て方などが紹介されています（<https://creatoracademy.youtube.com/page/home>）。サイエンスアゴラでの企画実施の際にも役立つ内容が含まれているので参照をおすすめします。

その他、サイエンスアゴラでの企画を設計する際には、以下の配慮をお願いします。

✓ 著作権についての注意点

企画実施時に、著作権処理を行わずに他者の著作物（市販品やキャラクター、グラフィック等）を使用することはできません（著作者からの許諾がある場合はその限りではありません）。

✓ 出展環境についての注意点

良好なインターネット環境（安定した Wi-Fi 環境や有線）での企画実施をお願いします。また、司会進行（ファシリテーター）、資料投影など画面の管理役、コメントや Q&A を拾い上げる係は、それぞれ 1 名を専任にしたほうが、進行がスムーズです。十分な人員配置をお願いします。

✓ 登壇者発表、パネルディスカッションでの注意点

サイエンスアゴラは開かれた対話の場です。スライドに用語解説を盛り込むなど初心者にもわかりやすい説明を心がけてください。また、異なる意見の人も含めて対話ができる工夫をお願いします。

✓ チーム討議や会場との対話における注意点

オンラインでも、最初にアイスブレイクを行うとその後の意見交換がスムーズです。チーム内での討

議が活発になるよう、各チームにスタッフを配置するのもおすすめです。また、オンラインでの参加者の状況は様々です。チャットでのコミュニケーションを希望する場合もあり、配慮が必要です。画面共有機能を使いながら、討議について行けない人が出ないように配慮してください。企画実施中は、Zoom のコメント欄や Q&A 機能をどうぞ活用するかも考えてください。

来場者に対しては「質問はありますか」の他「この技術を広めるためにはどうしたらいいですか」など、積極的に意見を拾い上げる問いかけを行ってください。また、来場者が自由に参加できる交流の場を設けることもご検討ください。

1 3 – 2. 時間配分の例

企画の中に情報を詰め込み過ぎると理解が進まず、参加者の満足度が下がります。登壇者が多すぎて十分な意見の交換が行えないと判断された場合は時間配分の評価が低くなるので、バランスにご注意ください。

設定されている時間枠をすべて使い切る必要はありません。たとえば、120 分以内の枠で 100 分の企画実施、90 分以内の枠で 60 分の企画実施は可能です。

●グループワークで課題を解決するワークショップ（120 分）の時間配分例

10 分	イントロダクション 企画の背景や課題・進め方の説明、チーム分け後、ブレイクアウトルームに移動		
45 分	チーム A での討議	チーム B での討議	チーム C での討議
	自己紹介、役割分担決め、意見交換		
10 分	休憩 ※ブレイクアウトルームから最初の部屋に移動		
15 分	各チームからの発表・共有（5 分ずつ） チーム A、B、C の各発表者		
30 分	全体ディスカッション		
10 分	まとめ、今後の課題の洗い出しなど		

●対話型シンポジウム（90 分）の時間配分例

5 分	イントロダクション ファシリテーターから概要説明
30 分	発表 1（A さん）、発表 2（B さん）、発表 3（C さん） 10 分ずつ登壇
30 分	パネルディスカッション
15 分	会場との対話（チャットや Q&A を活用したコミュニケーション）
10 分	まとめ

●工作・実験など、参加者と一緒に手を動かして考える企画（40分以内）の時間配分例

5分	イントロダクション出展者自己紹介、今からやること、道具の確認など
30分	実演・質疑応答※必要があれば部屋を分ける
5分	講評

13-3. 来場者とのコミュニケーションについて

質の高いコミュニケーション手法を検討する際には、様々なツール・サービスの利用も視野に入れてみましょう。各種ツールを使いこなすためには、科学コミュニケーター等の専門家に相談することもご検討ください（7～8ページに記載の「7. 専門家への相談について」もご覧ください）。

- SNSでの、#（ハッシュタグ）による情報発信
- AIR-VAS（議論支援システム）<https://ristex-eco.org/>
- Miro（オンラインホワイトボード）<https://www.miro.com/>
- Remo（バーチャル会議室が利用できるWeb会議システム）<https://remo.co/>
- Cluster（バーチャルSNS）<https://cluster.mu/>
- Slido（イベント時のQ&Aとライブ投票が可能）<https://www.sli.do/>
- Slack（ビジネスチャット）<https://slack.com/intl/ja-jp/>
- Chatwork（ビジネスチャット）<https://go.chatwork.com/ja/>

13-4. 広報計画の策定

出展者が独自に行う広報計画も審査の対象です。参加を呼びかける対象を明確に想定し、どのようなコミュニケーションを取るか検討してください。サイエンスアゴラ2020開催の広報は運営事務局が行いますが、応募の条件にもあるように、個々の企画の告知・広報はご自身で行う必要があります。今年はオンライン開催のため、東京に限らず、全国（あるいは海外）からの参加があることを意識してください。事前登録が必要となる設計なので、事前の告知・広報なくしては良い企画に気づいてもらえない場合があります。従来とは違った、全国規模での広報活動が必要かもしれません。ターゲットごとに、どのような告知・広報を実施すれば効果的かを考えてください。

過去のサイエンスアゴラで200名以上の参加者を集めた企画では、設定したテーマを情報収集している人と接点がありそうな機関・団体にアプローチしていました（調査時間も別途予定）。オンライン開催でも有効な方法なので、以下のステップを参考にしてください。



1. **関係機関へのリーフレット郵送**：独自にリーフレットを作成し、公的機関や自治体の担当課へ郵送。テーマと関係しそうな分野の研究者や実践者にも送付
2. **関係機関のメーリングリスト配信やサイト掲載依頼**：テーマに関連するWEBサイトを調べるとともに、登壇者の方に良い広報先を伺い、情報掲載を打診
3. **WEBサイトおよびメーリングリストと各種メルマガでの配信**：自分たちで所有するメーリングリストに加え、つきあいのある組織のメルマガにも掲載を依頼



14. 求める企画

サイエンスアゴラは2006年の開催以来、時代の変遷と共に変化し続け、2018年からは**対話を通じて社会の声を研究開発の現場に届け、よりよい未来への共創につなげる**こと（対話・協働の深化）、**科学コミュニケーションにより参加者の関心を広げる**こと（関心拡大）、の双方を達成する運営に挑戦しています。主催者のJSTは、科学者・研究者が参加できる企画を誘致して、科学技術イノベーションの一端を体感いただける場や交流できる場を設けます。2020年の公募では、テーマに沿った、以下の企画を歓迎します。

✓ 若手研究者や大学生、中高校生が参加できる企画

サイエンスアゴラには、多くの科学者・研究者が参加します。第一線の研究者から、次世代の研究者（候補）が一堂に会して未来を考える企画の応募を楽しみにしています。また、理解度が異なるカテゴリーごとに、知識を得たり、楽しんだりできる場も必要です。

✓ 「社会課題解決」「地方創生」にも着目し、関係者が集える企画

世代や立場、国を超えた視点での社会課題を取り扱う企画から、家族向けの企画まで、関係者が当事者として参加できる企画を歓迎します。主催者のJSTは、科学技術で社会課題を解決する地域の取り組みを集め、多くの方に知ってもらう場を作り込みます。

15. JST 主催企画、コラボ企画、誘致企画について（2020年6月30日現在）

●アゴラ市民会議

【JST 企画】研究者や企業の方、市民の方にもご参集いただき、協働に向けて実現可能なアイデアを出し合うディスカッションを行います。今後の新たな生活に向けて、科学技術と社会との新しい関係の構築をしていきます。

●セッションレポート

【JST 企画】JSTは、会期中に生まれた議論や交流などの成果を広く共有したいと考えています。セッションに参加できなかった方にも関心を持っていただくため、サイエンスアゴラ2020のサイト上で各セッションの報告を公開します。また、それらの報告に対して、来場者が自由に意見を述べられる仕組みの導入を検討しています。

●良縁創出企画「お台場100人論文」

【誘致企画】参画登録した研究者ごとに匿名で研究テーマを掲示し、質問、コメント、アドバイスなどを付箋紙に記入する「**京大100人論文** (<https://100nin.cpier.kyoto-u.ac.jp/src/about.php>)」のサイエンスアゴラ版です。

サイエンスアゴラ2020のサイト上に、参画者に対する3つの設問の回答（1. 研究や活動の内容など参画者本人の関心事、2. コラボしたい内容や困りごと、3. 自分から提供できるスキル）を一斉掲示します。希望者は登録を済ませたうえで、3つの設問に対して、自由にコメントを残せます。サイエンスアゴラ2020終了後も1ヶ月程度は参画者が交流できる仕組みを設けます。

●「STI for SDGs」アワード記念講演

【JST 企画】「STI for SDGs」アワードとは、未来共創推進事業の一環として、科学技術イノベーション（Science, Technology and Innovation：STI）を用いて社会課題を解決する地域における優れた取組を表彰する制度です。本制度を通じ、当該取組のさらなる発展や同様の社会課題を抱える地域への水平展開を促し、SDGs の達成への貢献を目指します。2020 年の受賞者によるプレゼンテーションを WEB 配信します。

●第 2 回 輝く女性研究者賞（ジュン アシダ賞）授賞式・記念講演

【JST 企画】JST は、女性研究者の活躍推進の一環として、持続的な社会と未来に貢献する優れた研究等を行っている女性研究者及びその活躍を推進している機関を表彰する制度を創設しています。女性研究者のより一層の活躍推進に貢献するため、第 2 回の授賞式と、受賞者による講演を WEB 配信します。

●IVRC2020（Interverse collegiate Virtual Reality Challenge）

【誘致企画】サイエンスアゴラ 2019 で人気を博した「国際学生 VR コンテスト」は、今年あらゆる世界が融合（Interverse）する時代の VR を募集し、様々な視点からのチャレンジを讃える IVRC に生まれ変わりました。新しい時代の VR に関するセッションを予定しています。

その他、以下との連携も予定しています。

●ジュニアドクター育成塾参加の小・中学生による研究発表会

●グローバルサイエンスキャンパス（GSC）参加高校生による研究発表会

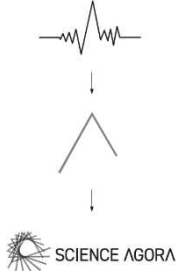
●イノベーション・ジャパン 2020～大学見本市 特設 Web サイト

企画実施の主な対象が中学・高校生の場合は、サイエンスアゴラとは別に、ジュニアドクター、GSC の生徒に対する企画実施を依頼することがあります。

16. 協賛企業の募集について

サイエンスアゴラの活動に共感し、サポートして下さる企業・団体には、優先的な企画実施枠などの特典を用意します。詳細はサイエンスアゴラの公式サイトをご覧ください。

<https://www.jst.go.jp/sis/scienceagora/>

	<p>SCIENCE AGORA LOGO CONCEPT</p> <p>発見やひらめきを感じた瞬間、人は大きな喜びを感じます。その気持ちが跳ね上がる瞬間を捉え、ロゴにしました。一つの要素が重なり、紡がれていく様子を表しており、多数の要素が集まることで大きく広がりを見せる場を象徴します。未来へとさらに発展していく様子を未完成な形で表し、人の対話とひらめきが重なりあい、未来を創る大きな力を表現します。</p>	<p>皆さまからの 出展・協賛を お待ちしております</p>
---	---	--